

「おどしのしつけ言葉」に関する研究 I

—どのような「おどしのしつけ言葉」を親から言われてきたか—

徳田 克己

(筑波大学心身障害学系)

I はじめに

いわゆる「しつけ言葉」には、子どもに対するおどしの要素をもっているものが少なくない。「ご飯をこぼすと目がつぶれる」「言うことを聞かないと人さらいが来る」「おまわりさんに捕まる」「おもちゃを捨てる」など、様々なものがある。

1995年の日本保育学会において、村石・関口・安見は、幼児に対するしつけ言葉に関する興味深い研究を発表し、多くのしつけに関わる成句が25年前に比べて使われなくなっている傾向があるとは言え、現在でもその言葉を「言ったことがある」とする母親が相当数いることを報告した。

筆者は、友人(全盲者)が自分の子どもを保育所に送って行った際に、ある園児から「おじさんはご飯をこぼしたから目が見えなくなったんでしょ」と言われたという話を聞いた。これは家庭での「しつけ言葉」が障害理解に影響している例であり、大変興味深かった。そこで、しつけ言葉が障害理解に与える影響について171名の幼児を対象に調査を行い、ある程度の影響があることを示唆する結果を得た(徳田, 1996)。

今回は「おどしのしつけ言葉」に焦点を絞り、大学生を対象として、子どもの頃にどのようなしつけ言葉を言われた記憶があるかについて尋ね、障害や病気に関係するものがどの程度あるかについて明らかにしたいと考えた。なお、幼児の母親に対しても同じ調査および現在子どもに言っている「おどしのしつけ言葉」の調査を行っており、母親は自分が言われた言葉を子どもに対して言っているかどうかについて分析をしている(この結果は、来年度の学会で公表予定)。

II 方法

- ①調査対象者：関東地方にある大学3校、短期大学2校に在籍している大学生 896名(男性 381名、女性 515名)。
- ②手続き：回答者無記名式の質問紙調査。30の「おどしのしつけ言葉」について、子どもの頃に言われた記憶があれば○をつけるように依頼した。また、それ以外のしつけ言葉で印象に残っているものがあれば自由に記述するように求めた。質問紙はB4版1枚。調査は平成9年10月中旬～11月上旬に実施。

III 結果

自由に記述されたしつけ言葉を整理・分類した。2件以上回答があったものが18あった。これらと質問紙に最初から記載していた30の言葉を合わせた48について、頻度(回答数)をまとめたものが表1である。表は、全体における回答数が多い言葉から並べてあり、また男性と女性の回答の割合の間に統計的に有意な差があったものについては、その有意水準を男性の数値の前に*によって示し、不等号(< >)で多い方を示した(χ^2 検定使用、* $P<0.05$ 、** $P<0.01$)。

全被験者 896名のうち、このようなしつけ言葉を親から言われた経験がないとした者は皆無であった。全体では平均5.59、男性5.99、女性5.31の回答数であり、男性の方が言われた言葉の種類が多かった。

最も多かったのは「テレビをそばで見ると目が悪くなる」であり、全体の94%が言われたことがあるとしている。これは女性の方が言われた経験が多かった。次いで「テレビを見すぎると目が悪くなる」であったが、これは男性の方が多かった。7番目の「ゲームをさせない」もやはり男性の方が多く、親は男の子のゲームをやめさせることに苦労したことがうかがえる。

3番目の「家にいれない」以下は、回答率(全体)が40%未満であり、どこの家庭でも言われた言葉というわけではない。

これらの他に、男性が有意に多かったものに「4 お父さんに怒られる」「11 先生に怒られる」「14 注射をうってもらう」「17 耳が聞こえなくなる」「23 病院に連れていく」「25 歩けなくなる」「28 血が出る」があり、女性の方が多かった「10 遊びにつれて行かない」「24 ヘビが来る」などに比べて、おどしのマグニチュードが大きいものが多いようである。

障害や病気に関係するものは多数あり「1 テレビをそばで見ると目が悪くなる」「2 目が悪くなる」「8 ご飯をこぼす(残す)と目がつぶれる」「17 耳が聞こえなくなる」「21 足でけると足が曲がる」「22 (子どもが)病気になる」「25 歩けなくなる」「30 声が出なくなる」「37 背が伸びない」「44 口が曲がる」などが挙げられる。特に「目がつぶれる」を27%が、また「耳が聞こえなくなる」を10%が、さらに「足が曲がる」を6%が挙げたことは、筆者には驚きであった。日常

表1. おどしのしつけ言葉を言われた経験

おどしのしつけ言葉	全体 (N=896)		男性 (N=381)	女性 (N=515)
1. テレビをそばで見ると目が悪くなる	841名 (94%)	*	350名	< 491名
2. テレビを見すぎると目が悪くなる (ゲームを含む)	708名 (79%)	**	324名	> 384名
3. 家にいけない	350名 (39%)		141名	209名
4. お父さんに怒られる	310名 (35%)	**	162名	> 148名
5. オバケが来る	295名 (33%)		120名	175名
6. テレビを見せない	295名 (33%)		131名	164名
7. ゲームをさせない	245名 (27%)	**	158名	> 87名
8. ごはんをこぼす (残す) と目がつぶれる	240名 (27%)		95名	145名
9. (子どもが大事にしている物を) 捨てる	163名 (18%)		64名	99名
10. 遊びに連れて行かない	127名 (14%)	*	42名	< 85名
11. 先生に怒られる	127名 (14%)	**	70名	> 57名
12. ……しないと、お菓子をあげない	105名 (12%)		45名	60名
13. ……しないと、たたく	104名 (12%)		48名	56名
14. 注射をうってもらう	100名 (11%)	*	55名	> 45名
15. おまわりさんに怒られる	98名 (11%)		50名	48名
16. 人さらいが来る	96名 (11%)		50名	46名
17. 耳が聞こえなくなる	93名 (10%)	**	52名	> 41名
18. ……しないと、ごはんをあげない	86名 (10%)		41名	45名
19. お母さんがいなくなる、帰ってこない	57名 (6%)		20名	37名
20. (子どもを) 捨てる	55名 (6%)		25名	30名
21. 足でけると足が曲がる	54名 (6%)		24名	30名
22. (子どもが) 病気になる	53名 (6%)		24名	29名
23. 病院に連れていく	52名 (6%)	**	35名	> 17名
24. へびが来る	51名 (6%)	**	12名	< 39名
25. 歩けなくなる	35名 (4%)	**	26名	> 9名
26. (親が) 死んでしまう	32名 (4%)		18名	14名
27. (親が) 病気になる	31名 (4%)		18名	13名
28. 血が出る	24名 (3%)	*	16名	> 8名
29. (おしり、物置、蔵、小屋などに) 入れる	21名 (2%)	*	3名	< 18名
30. 声が出なくなる	20名 (2%)		13名	7名
31. お父さんがいなくなる、帰ってこない	19名 (2%)		9名	10名
32. 親の死に目に会えない	15名 (2%)	*	2名	< 13名
33. (子どもが) 死んでしまう	14名 (2%)		7名	7名
34. 外に出す、ベランダに出す	12名 (1%)		3名	9名
35. だるまが来る	10名 (1%)		2名	8名
36. 舌を抜かれる	9名 (1%)		2名	7名
37. 背が伸びない、大きくならない、身長が止まる	6名 (1%)		3名	3名
38. ……に置いてくる	6名 (1%)		3名	3名
39. おこづかいをあげない、……を買ってあげない	6名 (1%)		3名	3名
40. 線香をあてる、お灸をすえる、マッチで火をつける	6名 (1%)		1名	5名
41. カミナリにおへそを取られる	5名 (1%)		2名	3名
42. 遊びに行かせない	4名 (0%)		0名	4名
43. ケガをする、ケガをさせる	4名 (0%)		1名	3名
44. 口が曲がる	3名 (0%)		1名	2名
45. お父さん (お母さん) のようになる	3名 (0%)		0名	3名
46. (人さらいなど) に連れて行かれる	2名 (0%)		0名	2名
47. (小学校、幼稚園) に行けない	2名 (0%)		0名	2名
48. (救急車、消防車) を呼ぶ	2名 (0%)		0名	2名

的にこれらの子ども達は、「親の言うことを聞かないとハンディキャップを持つことになる」と言われているわけであり、当然のごとく障害理解の点で歪みが生じてしまう。幼い子どもであれば、街なかで見かける障害者に対して、因果の図式 (原因: ご飯をこぼした → 結果: 目が見えなくなった) を当てはめるようになるであろう。親がいくら「身体が悪い人やお年寄り、病気の人には、親切にしてあげようね」と子どもに教えていても、おそらく「おどし」の場面の方が印象が強いであろうし、そのために子どもの障害観や人間観がかなり歪むのではないであろうか。

表1には、2件以上の回答があった言葉をまとめたが、これら以外に1件のみの回答が18あった。その中にも「ご飯の時に左手を使わないと手なくなる」「耳

がとれる」「机にすわるとバカになる」「気が狂う」「腰が曲がる」「おしりがくさる」などの障害や病気に関するものがあつた。また、「ナマハゲが来る」「法院の仁王がくる」などの地域的なもの、「しっぽが生える」「角が生える」という人間としての形が変わるもの、「耳かきする」「お墓に連れて行く」「Tヨットスクールに入れる」などの子どもが嫌がることをするもの、「包丁で刺す」「殺す」などの生命の危機を感じさせるものがあつた。「言葉より先にたたかれた」も1件あつた。

参考文献

村石昭三・関口準・安見克夫(1995)幼児に対する「しつけ言葉」の研究(1),保育学会第48回論文集,680-681.
徳田克己(1996)幼児に対するしつけ言葉が障害理解に与える影響,桐花教育研究所紀要,9,9-14.